

インドネシアのマングローブ

マングローブは主に熱帯から亜熱帯にかけての汽水域(淡水と海水の混じる場所)に生育しているので、インドネシアでは比較的、目にする機会も多いでしょう。分布の中心は東南アジアですが、アフリカ、南米にも見られます。北限は日本の九州南部、南限はニュージーランド付近です。インドネシアでの主要な生育地域パプア、カリマンタン、スマトラなどが挙げられます。

インドネシアは世界有数のマングローブ林生育国です。その広さは約300万ヘクタール、インドネシアの海沿い9万5千キロメートルに及びます。しかし、この30年間に、生育するマングローブ林の40%を失ったとも言われています。つまり、インドネシアは世界で最もマングローブ林の破壊が進んでいる国の一つとも言えます。



ティドゥン (TIDUN) 島のマングローブ

インドネシアだけでなく、東南アジア全域でマングローブ林が激減していますが、その原因はいくつかあります。最大の要因は、エビの養殖池への転換です。東南アジアでは1970年代からエビの養殖のためのマングローブ林の伐採が始まり、多くのマングローブ林がエビの養殖場に代わっていきました。特にインドネシアは中国、インドに次いで世界第3位の養殖エビの生産国です。そして、このエビの最大の供給先が日本なのです。

また、マングローブは炭素を多く含むため、炭の原料としても多く用いられます。その含有量は通常の木々の数倍とも言われています。マングローブから作られる炭は上質で、火力が強くて長持ちします。以前はマングローブ林の近くで生活する人々が炊事に使う程度でしたが、1960年代以降、農村部の現代化に伴い、炭の使用量が増え、マングローブ林が大量に伐採されるようになりました。

マングローブ林の幹や根は、海からの風や波から陸地を守り、陸からの土砂や汚水の流出を緩衝します。そのため海岸浸食や災害防止にも役立ちます。実際2004年12月のスマトラ沖地震の際も、マングローブ林によって津波の被害が少なくなった地域もあるようです。

また、マングローブ林は多様な生き物の生息地となっています。木々の上には哺乳類や鳥類、爬虫類、両生類が住み、水中には、エビやカニ、貝などが暮らしています。張りめぐらされた根は多くの稚魚を保護する役割を担っています。

現在、インドネシアでもマングローブ生態系の保全と持続可能な管理及びマングローブ林の再生が急務の課題となっており、マングローブ林の保護、修復作業が行われています。インドネシア政府は、マングローブ林を含む森林の減少・劣化の防止、違法伐採の排除、森林火災の予防、森林資源管理の効率化による森林の再構築、森林資源の保全、森林管理部門の地方への移管といった政策を打ち出しています。人間やその他生物の生活に密接に関わるマングローブの将来について、真剣に考えなければならないのでしょう。

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 29

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。のうえ、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#) (電話 086-226-7365) までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。